

# 65歳以上の人の インフルエンザ予防接種が 始まります

## 申請・問合せ

廿日市市保健センター ☎②1610  
 佐伯支所市民福祉課 ☎⑦1118  
 吉和支所市民福祉グループ ☎⑦2113  
 大野保健センター ☎⑤2660  
 宮島支所市民福祉課 ☎④2001

インフルエンザは、高齢者がかかると気管支炎や肺炎などを合併し、重症化しやすい特徴があります。流行前に予防接種を受けることが予防の基本になります。

65歳以上の人には、予防接種にかかる費用の一部を公費で負担します。予防接種を希望する人は、表の医療機関に予約をして受けてください。

平成23年度から、新型インフルエンザ（A/H1N1型）は季節性インフルエンザと同様の扱いになり、64歳以下（一部対象者除く）の人の市での公費助成はなくなりました。

**期 間** 10月15日(月)～平成25年1月31日(木)（過去の流行状況から、12月中旬までに接種することをお勧めします）

**対 象** 次の①か②に該当し、本人が予防接種を希望する人  
 ①65歳以上の人  
 ②60歳以上65歳未満で、心臓、じん臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障害を有する人（障がい者手帳1級相当）

**接種回数** 1回 **自己負担額** 1,000円  
 ※ただし、生活保護世帯、市民税非課税世帯の人は、自己負担額が免除になります。印鑑を持って事前に申請してください。自己負担額免除の申請は10月12日(金)から開始します。

地区	医療機関名	住所	電話番号
佐伯	天野医院	津田	⑦21181
	おおくぼ内科	永原	⑦43400
	佐伯中央病院	津田	⑦21100
	友和病院	峠	⑦40688
吉和	廿日市市吉和診療所	吉和	⑦2780
	青葉レディースクリニック	福面二丁目	⑤2327
	安東内科クリニック	対巖山二丁目	⑤1231
	井上内科医院	大野一丁目	⑤0600
大野	大野浦病院	丸石二丁目	⑤2426
	敬愛病院	大野	⑤3333
	酒井内科医院	宮島口西二丁目	⑤2334
	杉原外科医院	大野一丁目	⑤0534
	永井医院	大野中央三丁目	⑤0014
	永井内科胃腸科医院	宮島口一丁目	⑤0023
	永田内科	塩屋一丁目	⑤3323
	中丸クリニック	宮島口一丁目	⑤0550
	長谷川整形外科	塩屋二丁目	⑤1011
	松本クリニック	福面三丁目	⑤4530
	向井クリニック	前空五丁目	⑤6166
	もりもと医院	大野原二丁目	⑤0032
宮島	宮島クリニック	宮島町	④1770

## 定期的に検診を

がんは早期発見・早期治療を行えば、治らない病気ではありません。がん検診を定期的に受診することが重要です。市では、毎年集団・個別がん検診を実施しています。

詳細は、「平成24年度 健診のしおり」をご覧ください。  
**がん検診無料クーポン券**  
 対象者には、5月30日付で無料クーポン券を配布しています。検診項目は子宮頸がん検診・乳がん検診・大腸がん検診です。  
 検査項目と対象者については、次の表を参照してください。有効期限内であれば、同封した一覧表（検診実施機関）の中から選んで無料で受診することができます。

### 検査項目

- 子宮頸がん 問診・視診・子宮頸部の細胞診・内診
- 乳がん 問診・視触診・マンモグラフィ
- 大腸がん 問診・便潜血検査二日法

### 対象者一覧表

検診項目	年齢	生年月日
子宮頸がん	20歳	平成3年4月2日～平成4年4月1日
	25歳	昭和61年4月2日～昭和62年4月1日
	30歳	昭和56年4月2日～昭和57年4月1日
	35歳	昭和51年4月2日～昭和52年4月1日
	40歳	昭和46年4月2日～昭和47年4月1日
乳がん・大腸がん	40歳	昭和46年4月2日～昭和47年4月1日
	45歳	昭和41年4月2日～昭和42年4月1日
	50歳	昭和36年4月2日～昭和37年4月1日
	55歳	昭和31年4月2日～昭和32年4月1日
	60歳	昭和26年4月2日～昭和27年4月1日



写真右上 昭和4年の広電廿日市駅。当時は「廿日市町駅」として開業。写真提供広島電鉄株。写真下 解体が決まった現在の広電廿日市駅。



# ありがとう— 広電廿日市駅舎



写真右 大正時代の雰囲気を感じさせる木造駅舎の広電廿日市駅。写真左 平成25年3月末に完成予定の広電廿日市駅。位置、大きさなどはイメージであり、実際のものとは異なります。

9月8日、広電廿日市駅は、これまで駅に親しんできた人たちや、鉄道ファンなど多くの人たちで賑わった。  
 大正13年に開業した当初は、「廿日市町駅」だった同駅。周辺整備事業で取り壊し、ホームは約50m東側に移転することが決定。広電宮島線乗務員有志と、「路面電車を考える会」は、二百廿日豊年市民祭に合わせ、駅舎の「さよならイベント」を企画した。  
 駅舎には、昔の写真のパネル展示や、改札口の復活、記念入場証明も発行された。寄せ書きコーナーには通勤・通学で利用した思い出や、感謝の言葉など、多くの人が駅への思いをつづった。

イベントを企画した広島電鉄(株)乗務員の中田裕一さんは「新しい電車が走る中で、大正時代の駅が存在することがすばらしい」と語る。「以前は出札窓口もあり、切符を切る際のお客さんとの会話やコミュニケーションがそこにありました」と当時を懐かしむ。  
 駅舎の売店を営んだ和田トモエさん(90歳)は「人生の大半はこの駅舎とともに過ごしてきました。懐かしい思い出がいっぱい詰まっています」と話す。  
 新しいホームは、約50メートル東側に移設され、平成25年3月末の供用開始を目指す。

広島電鉄株乗務員  
 なかた・ゆういち  
**中田 裕一さん**



昔は駅員が駅舎に宿泊したりもしていました。やはり寂しいという気持ちが大ですが、88年間も地域の人の役に立てたことは立派だと思います。

50年以上も駅舎の売店を続け、現在も駅前で商店を営む  
 わだ・ともえ  
**和田 トモエさん**



昔はこの駅前から路線バスの発着があり、多くの方がこの駅を使いました。やはり寂しいですが、最後まで見届けたいと思っています。